

新型コロナ後遺症 54%が「就労に何らかの影響」 岡山大学病院のアフターケア外来が分析

2024/8/1 KSB5CH



岡山大学病院は2021年2月に「コロナ・アフターケア外来」を開設し、新型コロナ後遺症に苦しむ患者に他の診療科と連携して専門性の高い医療を提供しています。総合内科・総合診療科の松田祐依医員らの研究グループが、2023年12月までの間に受診した後遺症患者を対象に、労働状況への変化を調査分析したところ、雇用されている545人のうち54%にあたる295人に何らかの就労への影響があったことが分かりました。

内訳は、1カ月以上の休職が220人、退職が53人、時短勤務22人で、就労の影響は女性の方が多く、若年者と高齢者は退職率が高い傾向があったということです。

こうした患者には、倦怠感、不眠、頭痛、呼吸困難感などの症状が多くみられたということです。

岡山大学学術研究院医歯薬学域（医）総合内科学の大塚文男教授は「新型コロナ後遺症の治療にはいまだ特効薬がなく、回復には時間がかかることもあり、社会の理解が重要」としています。

〈新型コロナ〉岡山大学病院が「コロナ・アフターケア外来」を開設 嗅覚異常などの後遺症を治療 2021/2/15 KSB5CH

岡山市の病院が、新型コロナウイルスに感染した患者の後遺症を治療する外来診療を始めました。

「コロナ・アフターケア外来」を開設したのは岡山大学病院の総合内科です。

新型コロナウイルスに感染すると、検査で陰性になった後も呼吸困難や嗅覚異常などの後遺症が残るケースがあります。



診療日は毎週、月曜日と火曜日で感染症専門医を含む総合内科医のチームが診療にあたります。

診療は完全予約制となっていてかかりつけの医者からの紹介状が必要です
(岡山大学病院・総合内科学／大塚文男 教授)

「軽症であっても、心のこと、その後の倦怠感が続くことがありますので。中四国のエリアでの発生状況に応じた対応をしていきたい」